

保護者の皆様

きぞろ幼稚園

園長 竹中啓子

令和7年度学校評価報告について

日頃より、園に対しましてご理解ご協力下さり、誠にありがとうございます。

本年度行いました学校評価の結果をお知らせいたします。学校評価とは、幼稚園が教育活動その他の運営について目標を設定し、その達成状況を整理して取り組みの適切さを検証することにより、組織的、継続的に教育の改善をするため、また、自己評価・学校関係者評価の実施・結果の公表により、保護者の皆様から教育活動その他の運営に対する理解と参画を得て、信頼される開かれた幼稚園づくりを進めるために行われるものです。保護者の皆様に回答いただいたアンケートの結果と併せてご覧ください。

I 園からの情報

① 園での子どもの様子を知ることができる。/保護者に伝えている。



II 園の機能

① 園は、子どもの安全に配慮した環境づくりをしている。

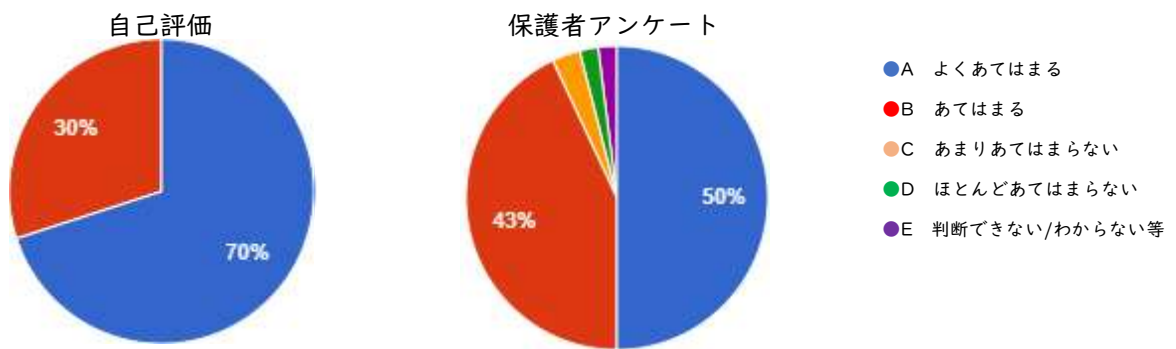


Ⅲ 教職員の役割

① 教諭は、子どもの理解に努め、一人一人の性格や特性などに配慮しながら指導している。



② 教諭は、保護者と信頼関係を築けるよう努めている。



Ⅳ 園児について

① 子どもは、園に行くのを楽しみにしている。

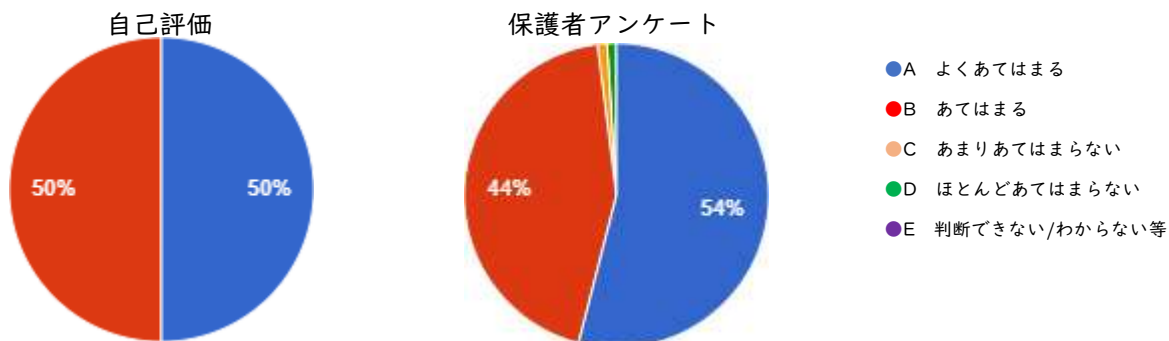


② 子どもは、園で自分の力を十分に発揮していると思う。

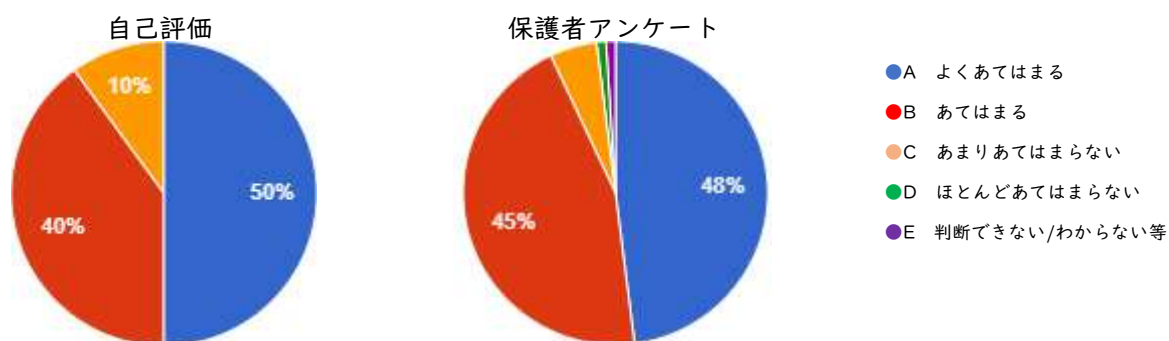


V 教育の内容・方法

① 園は、子どもの基本的な生活習慣が身につくよう指導している。



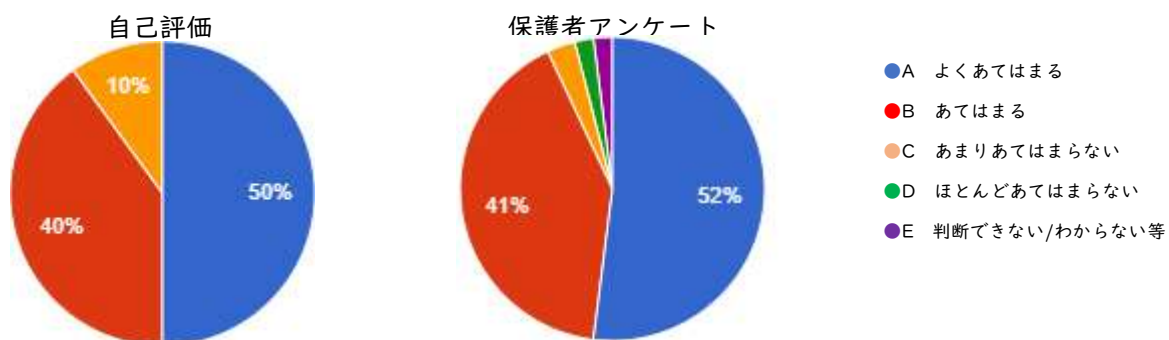
② 園は、思いやりや、やる気を育て、問題解決能力を自ら養うよう指導している。



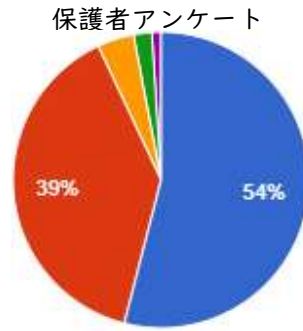
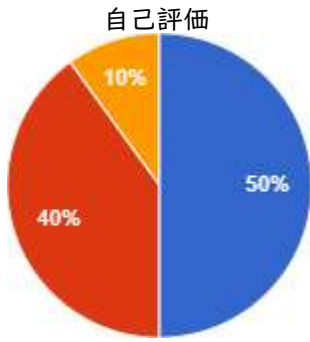
③ 園は、「健康で明るい子ども」に育つよう指導している。



④ 園は、「あいさつができる子ども」に育つよう指導している。

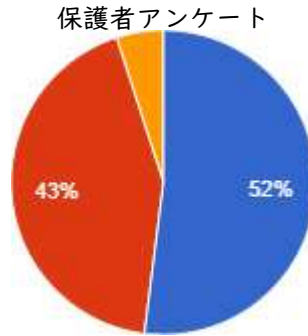
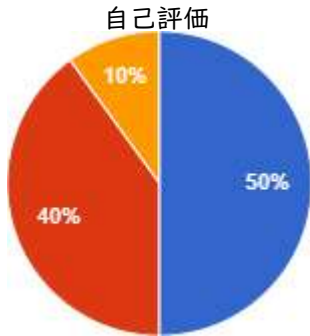


⑤ 園は、「友だちとなかよく遊ぶ子ども」に育つよう指導している。



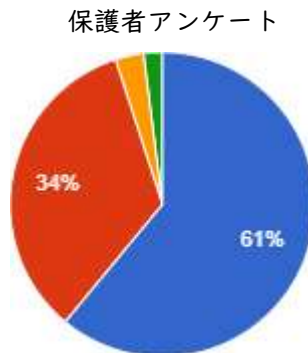
- A よくあてはまる
- B あてはまる
- C あまりあてはまらない
- D ほとんどあてはまらない
- E 判断できない/わからない等

⑥ 園は、「精いっぱいがんばる子ども」に育つよう指導している。



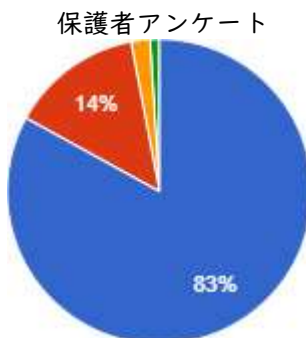
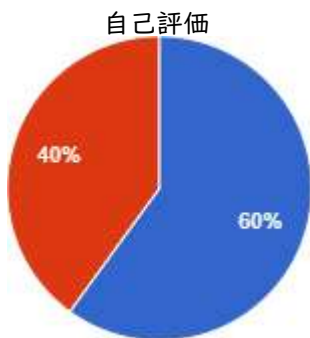
- A よくあてはまる
- B あてはまる
- C あまりあてはまらない
- D ほとんどあてはまらない
- E 判断できない/わからない等

⑦ 園は、「感性豊かにのびのび表現できる子ども」に育つよう指導している。



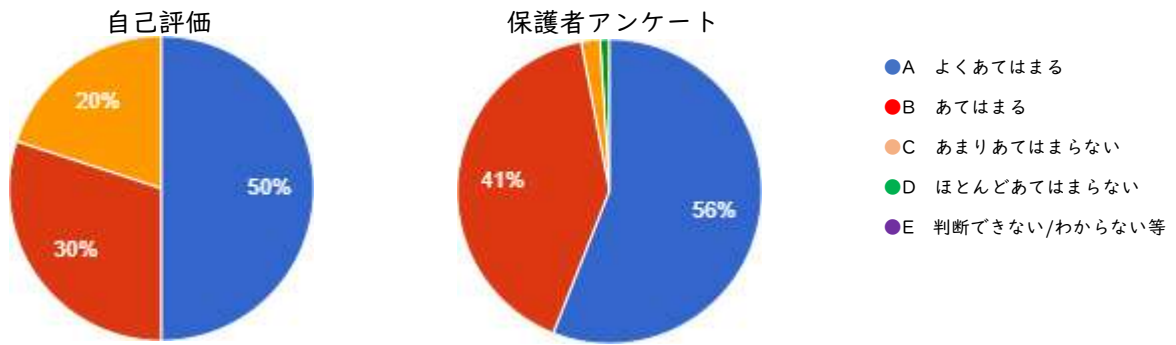
- A よくあてはまる
- B あてはまる
- C あまりあてはまらない
- D ほとんどあてはまらない
- E 判断できない/わからない等

⑧ 子どもの食に対する関心を育てている。



- A よくあてはまる
- B あてはまる
- C あまりあてはまらない
- D ほとんどあてはまらない
- E 判断できない/わからない等

⑨ 子どもが意欲的に表現活動（描画・製作等）をする時間を大切にしている。

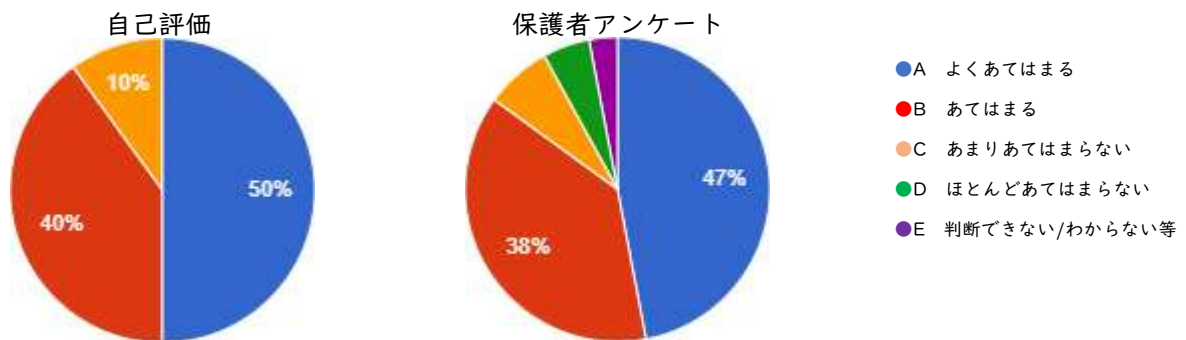


⑩ 園は子どもの発達に応じた経験ができるようにしている。



VI 子育て支援

① 保護者の子育てについての相談にのっている。



② 地域との交流を図っている。



自由記述欄

<職員自己評価>

- ・ 職員間でもっと話し合いができる時間を作りたい。

<学校関係者評価>

- ・ 自己評価については概ね妥当である。
- ・ 「子どもの安全に配慮した環境づくりをしている」「あまりあてはまらない」という回答があり疑問に思う。

<保護者アンケート（抜粋要約）>

- ・ いい幼稚園です、とても信頼しています
- ・ 各活動に関して、年々改善されていると感じます。保護者や地域の方の意見を取り入れ、試行する姿勢に共感します。
- ・ きぞろ幼稚園ののびのびとした生活環境、先生方が作ってくださる空気感、とても好きです。これからもこのままのきぞろ幼稚園でいて欲しいです。
- ・ 子どもファーストでのびのびと、生活力や自然体験を大事にする方針が素晴らしく、そのままの教育方針の園であって欲しいですが、保護者をとりまく現状を考えてほしい。具体的には、午前保育を減らす、給食回数を増やす、保護者の負担を減らす、預かり保育や課外後のバス送迎をするなど。

園より

本年度は、各学年において戸外遊びの時間を十分に確保し、子どもが自然環境の中で主体的に活動できる機会の充実に努めてきた。

一方で、単なる時間の確保にとどまらず、子ども一人ひとりが主体的に遊び、その経験が学びへとつながっているか、また心身の充足を踏まえて次の活動へ円滑に移行できているかという点については、保育者の関わり方を含めた環境設定に改善の余地があると認識している。

来年度においては、子どもがより主体的に遊び学ぶことができるよう、カリキュラムの策定段階から見直しを行い、実践の質の向上に取り組む。あわせて、職員間の話し合いの機会を柔軟に確保し、保育観及び実践の共有・統一を図る。

安全に配慮した環境づくりについては、本園では子どもの安全確保を大前提とし、重大な事故につながる危険箇所については日常的な点検及び必要な対応を実施している。

その一方で、過度にリスクを排除した環境は、子ども自身が危険を察知する力や安全に行動する力を獲得する機会を損なう可能性があるかと捉えている。このため、重大な危険については適切に管理したうえで、子どもが身体を使った試行錯誤を通して判断力や身体感覚を育成できる環境を意図的に構成している。職員による自己評価において、「子どもの安全に配慮した環境づくりをしている」の設問に対し「あまりあてはまらない」とする回答が見られたが、これは現状に対する課題認識及び改善意識の表れとして受け止めている。

今後も、安全の確保と子どもの主体的な育ちの両立を図る観点から、環境の見直し及び職員間の共有を継続的に進めていく。

また、近年の家庭環境の変化を踏まえ、子育て支援の在り方についても継続的に検討している。保護者支援の充実に努めるとともに、子どもの発達を保障する視点を基盤とした保育の実践を重視している。特に低年齢期においては、生活リズムの安定が重要であると認識している。今後も継続して、保護者の利便性と子どもの育ちの双方の観点を踏まえながら、教育・保育の在り方及び子育て支援の在り方について検討を重ね、質の向上に努めていく。